

「潰瘍性大腸炎手記」匿名希望 20歳

2014年11月30日

私が潰瘍性大腸炎と診断されたのはH26.8.27でした。9日から腹痛と下痢が始まりました。初めは「またか…」という感じでした。もともとお腹が弱く、2月にも腹痛と下痢で病院に行ったら「食中毒ですね。でももう治りかけてますよ。」と言われたことがあったからです。だから今回も食中毒だろうなと思い、1週間で治ると思っていました。だけど、5日経っても下痢は止まらず1日に5～6回トイレと部屋を行き来していました。お盆で病院が閉まるから、と12日に前に食中毒と診断された病院に行きました。病院で検査をしたら「潰瘍性大腸炎かもしれないですね。今回も細胞検査をしましょう。2週間後に来てくださいね。一応、潰瘍性大腸炎のお薬を出しておきます。」と言われました。私は自分が難病になったかもしれない事実を受け入れられませんでした。それから家に帰って潰瘍性大腸炎のことを調べました。本当に治らないのか、これから先ずっと薬を飲み続けるのは嫌だと思っていたからです。そんなとき、松本医院の同じ潰瘍性大腸炎と診断された人の手記を見つけました。これを読んで「ここに行けばきっと治る！ここに行かないと！！」と思い、同棲している彼氏にこのことを伝えました。彼氏は、もし潰瘍性大腸炎だったら松本医院に行くことに賛成してくれました。27日に病院に行くことになり先生から「やっぱり潰瘍性大腸炎でした。でも難病だけど薬を飲んでおけば症状は抑えられるし、妊娠・出産もできます。食べ物も特別食べられないものはないですから大丈夫ですよ。」と言っていました。私はこれを聞きながら「やっぱりか…」という感じでしたが、松本医院を見つけていたので前ほどショックは受けませんでした。27日に診断されてから実家に戻り、病気のことや松本医院に行きたいことを説得し、31日に彼氏と2人で大阪まで新幹線で行きました。駅から近く、すぐに見つけられました。院内に入ると患者さんがたくさん居て、先生や看護師の方の声が行き交っていました。最近の病院と違って大きな声が行き交っていて、活気がいいなと思いました。受付をして、手記などを読んでいるときは「これで私は治るんだ！」と思い、ワクワクしていました。診察室に呼ばれて入ると、若い先生がいらっしやいました。まず最初に「福岡からいらっしやったんですね、長い旅だったでしょう。ご苦労様です。」と言ってくれました。この言葉だけでも、私は松本医院に来てよかったと思いました。それから、潰瘍性大腸炎という病

気はどうしてなるか、病気は自分で治すこと、どんな治療を受けてきたか、今の医療についてなどたくさんのお話を聞きました。潰瘍性大腸炎はストレスが大きく関わっていると言われ、それが何か分かるかと聞かれました。私はそれが何かよく分かっており、またその問題が解決していたのでそのことを伝えました。すると先生は、「なら大丈夫や」と言ってくれました。それから採血をして、鍼灸をして帰りました。初めての漢方薬は煎じたりと大変でしたが、彼氏が手伝ってくれたり実家に帰ってやってもらったりとそんなに大変ではありませんでした。味は食前・食後ともすごく苦くて、初めは、はちみつや砂糖を入れたりしないと飲めませんでした。お灸もできなかつたりするときがありました。あまりできなかつたと思わないようにしていました。リバウンドが大なり小なりくると思っていたのですが、私はリバウンドがこなかったです。漢方薬を飲み始めて3週間経ったくらいから背中が痒くなり、見てみたら湿疹ができていました。先生に話すと、「それクラススイッチや」と言われました。私は「え！リバウンド来てないのに?! しかもこんな軽いのか?!」と思いましたが、すごく嬉しかったのを覚えています。10月に松本医院に行ったとき、初めて院長先生にお会いしました。すごく忙しそうでした。下痢の有無などを聞いたあと、採血をして鍼灸を受けて帰りました。このとき、松本医院に行く前の検査のことを話したら、先生からは、それはちゃんとした検査ではないと言われました。2回目の血液検査では異常はないと言われ、手記を書くに至っています。まだ完治ではないですが、先生から完治と言われるように漢方薬を飲んでいきたいと思えます。最近は大学が忙しく、お灸ができていないので落ち着いたらまた再開したいと思えます。私は診断されてからすぐに松本医院に辿り着けたお陰で、**短期間でここまで来たと思っています。**もし診断されるまで知らなかったら、私も現代医療の餌食になっていたかもしれません。だから、この手記を書いた他の患者さんにすごく感謝しています。そんな私だからそこ、同じ病気の人に松本医院のことを知ってほしいと思っています。また、私の手記が過去の私と同じように早く松本医院の治療を受けるきっかけになれば、と思っています。完治するまで松本医院の皆様、よろしくお願ひ致します。